

6大崎高第230号
令和6年4月23日

令和6年度 東京都立大崎高等学校全日制課程 学校経営計画
－生徒の未来を共に考え支援する学校を目指して－

校長 鶴 田 秀 樹

0 教育目標

「我ら大崎、誇りを胸に」変化の激しい社会をたくましく生きる、タフな人材の育成

1 目指す学校

本校の教育目標には、「変化の激しい社会をたくましく生きる、タフな人材の育成」という文言が挿入されている。生徒が今後社会の中核として活躍する30年後、40年後の未来に思いを馳せると、まさに変化が激しく、新たな課題の発生を禁じ得ない社会の到来を想起する。そういう時代を生き抜き、時代を力強く切り拓いていくことができる人材、また、かかる社会の中で幸福感に満たされ、より良い社会の実現を目指そうとする意欲溢れる人材を育成することは急務である。

そこで、本校の教育目標を実現し、未来に向けて人材を育成するために、以下のとおり「目指す学校」を規定する。

- (1) 社会の変化を敏感にとらえ、その時々課題に適切に対応できる能力を持つ人材を育成する学校
- (2) 困難や逆境にめげることなく、高いレジリエンスを備えた人材を育成することができる学校
- (3) 社会や対人関係を良好に紡ぎ、知的探究心に溢れ、かつ自己抑制力のある、いわば「人間力」の高い人材を育成することができる学校
- (4) 社会における自分自身の役割を見出し、自己実現を意欲的に図ろうとする意志を持つ生徒を育てる学校
- (5) 社会と自己の幸福を希求する意思を持つ人材を育成する学校

上記五点を「目指す学校」として掲げ、その内容をさらに掘り下げ、「スクール・ミッション」並びに「スクール・ポリシー」として定め、広く一般に広報する。

① スクール・ミッション

自己肯定感を育成し、強い意を持って、社会を切り拓くことができる人材を育成するために、すべての教育活動を通じて、以下の能力を育成する。

ア 自己実現力

イ 思考力・探究力

ウ 自己抑制力

エ キャリア形成力

オ 協働力

② スクール・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー

人生における困難に打ち勝つことができる強い精神力を鍛えるとともに、知的興味や関心を一層育成し、自ら探究する精神を育て、社会における自己の役割を認識し、実現しようとする人材を育成する。

○カリキュラム・ポリシー

進学を基調とする教育課程の推進と個に応じた進路指導の実践により、生徒の進路実現を図る。また、部活動や学校行事を積極的に奨励し、人間力並びに協働力を向上する。

○アドミッション・ポリシー

本校での学校生活における目的意識を明確にもち、3年間継続して勉学と特別活動に意欲的に取り組み、人生を意欲的に切り拓こうと努める生徒を期待する。

2 中期的目標と方策

【目標】

未来社会に対する興味関心を醸成し、社会の課題を自己の課題として認識して望ましい解決方法を意欲的に考察して実践することができる人材の育成。

【方策】

ア 学校経営

徹底した進路指導の充実と、教育実践力の向上

イ 学習指導

いわゆる「わかる授業」ではなく「生徒の思考力を促す授業」の具体的実践と探究的な学びの姿勢の充実

ウ 自律的な生活習慣の確立を目指した、生活指導や生徒会活動をはじめとする各種委員会の充実、部活動の充実

エ 進路指導

組織力をより向上し、入学時から卒業時までの一貫した進路指導の充実

オ 学校施設

施設・校舎改築委員会や学校安全委員会、防災管理・防災対策委員会などの機能を活用し、老朽化や破損箇所の洗い出しや改善及び空調設備の改善

3 今年度の取組目標と方策

学校が組織体として健全に機能するために、全教職員の明確な到達目標の認識に基づく学校経営を推進する。そのために、以下の諸点を今年度の取組目標と方策として掲げる。

(1) 学校経営

【目標】

生徒の進路実現とキャリア育成を重視した学校経営体制を改めて構築し、全教職員が個々の生徒を支援する体制で臨む。

- ア 自律性の高い生徒の育成を全教職員が一体となって行う。そのために、教職員が率先してメリハリある職務行動を行う。
- イ 時間を有効活用し、職務の効率化を図るために、積極的な DX 化を検討する。
- ウ 進路指導に関するノウハウや情報を意欲的に吸収し、時機に適った進路指導の実践を行う。
- エ 現行の教育課程について、評価を行うとともに、必要に応じて改善を行う。
- オ 双方向的で深い学びの在り方やオンラインを介した新しい授業の在り方や評価の在り方の研究を行う。
- カ 大学進学者数の向上を引き続き図る。そのために、特進クラスの在り方についての課題を見出し、望ましい改善検討を行う。

(2) 学習指導

【目標】

生徒により深い学びへの意欲を喚起させるための授業を研究し、単なる知識注入型の授業に終わることなく、自ら課題解決に向けて自律的に学習を進めるための授業の在り方を創造する。

- ア 研究授業をより活発に行い、生徒が自ら学ぶ姿勢を喚起する授業研究を充実させる。
- イ 現行の朝学習の在り方について、これまでの評価を行い、より効果的な在り方を検討改善する。
- ウ 総合的な探究の時間については、生徒のキャリア形成にふさわしい内容となるよう工夫する。
- エ 教科主任会議を毎月開催し、教科間の情報提供や課題の調整、教育課程の評価改善を行う。
- オ 国際理解教育を推進する。そのために、オーストラリア短期研修の復活や都教育員会主催事業であるグローバル人材育成事業を意欲的に活用する。

カ 自習教室の運営について、より効果的でありかつライフ・ワーク・バランスに根差した運営となるように検討を行う。

(3) 生活指導

【目標】

自律的な精神の育成を基調として、生徒のキャリア形成を支援する生活指導により、社会との望ましい関わり方を自ら追い求める生徒を育成する。

- ア 基本的生活習慣の確立を目指し、遅刻指導や服装等指導を、生活指導部と学年が連携して年間を通じて行う。
- イ 体育祭や黎明祭を主軸として、学校行事を工夫し、生徒自身に達成感や成就感を醸成することができるよう、在り方を工夫する。
- ウ 日常の安全に努めるとともに、生徒の登下校時における交通安全指導、自転車運転時におけるヘルメット着用の一層の励行を行う。また、緊急時の連絡体制を明確化する。
- エ 教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒を全力で支える。
- オ 「大崎の生徒」としての誇りと帰属意識を醸成するために、授業や学校行事などにおいて、メリハリある行動ができるように指導を継続する。

(4) 進路指導

【目標】

普通科の究極の目的は、生徒のキャリア教育にある。いわゆる出口指導のみならず、全ての教育活動を通じて、生徒自身が生き方・在り方を真剣に模索していくことにより成長することを期して、全ての教育活動においてキャリア教育を実践していく。

- ア 総合的な探究の時間やホームルーム活動等を通じて、生徒のキャリア形成に資する時間を計画的につくり、人生の生き方や在り方を考えさせる活動を採り入れる。
- イ 生徒の未来を共に考え、支援していくために、具体的な出口指導については、生徒の進路希望を尊重しつつも、エビデンスに基づいた指導を積極的に行う。
- ウ 外部機関と連携を密にして、生徒の進路開発のためにふさわしい進路行事を意図的・計画的に行うとともに、生徒が外界に目を向けるきっかけを創ることができるように工夫する。
- エ 組織的・系統的な進路指導が充実するように、現行の特進クラスの在り方に関する課題の有無を点検する。
- オ より効果的な学習方法を身に付けさせ、進路開発のための強い心を育成するために、仲間とともに努力する姿勢を日ごろから指導する。
- カ 現行の特進クラスの設置に関する在り方、及び土曜講習の効果的な運営の在り方について検討を行う。

（５）特別活動

【目標】

主体的に社会に参画し、自分自身の未来及び人間関係をよりよく形成するとともに、人としての生き方・在り方についての自覚を深め、自己実現を図るために特別活動を充実させる。

- ア 「生活の基盤は学校にあり、学校での基盤はホームルームにある」ということを感得させ、意義を見出させるために日常のホームルーム活動を計画的に行う。
- イ 生徒会活動を支援し、生徒自らが考える学校改善については積極的に採り入れる。
- ウ 校則の内容を再度検討し、生徒の自律のために真に必要なかどうかの検討を行う。
- エ 部活動の教育的意義を重視し、一層部活動を奨励する。特に、部活動を通じて協働力を身に付けさせる。また、部活動相互の連携や絆を深めさせる。
- オ 学校行事に生徒自らが意欲的に取り組み、実践後に深い成就感が得られるように工夫するとともに、各学校行事の実際が、生徒のキャリア育成の観点から評価を行う。

（６）経営企画室

【目標】

真に学校経営に参画する経営企画室を目指し、教育目標の達成や学校経営計画の実現に向けた具体的な取組や提言を行う。

- ア 施設校舎改築委員会のメンバーとして、学校諸施設の改善に意欲的に取組む。
- イ 自立経営予算については、費用対効果を念頭に置きつつ、メリハリのある予算投下を実現していく。
- ウ 機能的で職務向上につながる事務体制の在り方や、職種を越えたコミュニケーションの在り方を見直し、学校経営の中核機能として健全に機能する経営企画室を目指す。

（７）その他

- ア 生徒のキャリア育成や進路開発に資するための学校図書館の機能を一層高める。また、読書指導を意欲的に進める。
- イ 全教職員による服務事故防止を徹底する。そのために、服務事故防止研修を意図的計画的に開催するとともに、日常のヒヤリハットに敏感である職場環境を形成する。
- ウ B C P（事業継続計画）を改めて確認し、緊急事態発生時にも安定した学校運営に努められるように努める。
- エ 職員のライフ・ワーク・バランスをさらに継続するため、毎月１回全日制定時制とともに、「残業１時間限定デー」を設定する。また、職員の夏季休暇の完全消化を目指すとともに、年間取得の促進を行う。

4 重点目標の設定と方策（数値目標）

○生徒の学校満足度（本校に入学してよかったと思える生徒）	90%以上	（学校経営）
○学校のDX化	採点システムの利活用	全教科（学習指導）
○全教職員相互の授業観察		年2回以上（学習指導）
○朝学習		毎日
○授業改善	校内研修の実施	年3回以上（学習指導）
○生活指導	遅刻者数	1クラスあたり1日0.30人以下 （生活指導）
○生活指導	特別支援教育に関する委員会の開催	年2回以上（生活指導）
○特別活動	部活動入部率	88%以上（生活指導）
○進路実績	四年制大学進学率	73%以上（進路指導）
○進路実績	GMARCH 級大学進学者数	12人以上（進路指導）
○進路実績	日東駒専合格者数	60人以上（進路指導）
○ベネッセ GTZ 分布 B3 以上		65人以上（進路指導）
○募集対策	学校説明会等来場者数	年間2600人以上（広報活動）
○募集対策	中進対倍率	1.5倍（広報活動）
○募集対策	一次応募倍率	1.6倍（広報活動）
○ライフ・ワーク・バランス	残業1時間以内設定日	年間11回（学校経営）